

三水会会報

北里大学水産学部
同窓会会報
第 10 号

昭和60年10月19日発行

編集者 大野 良 樹

発行 北里大学水産学
部同窓会

(三水会事務局)

〒151 東京都渋谷区大山町17-

17-503 ☎03(465)6569

振替口座 第一勧業銀行大手町

支店 008-1182388



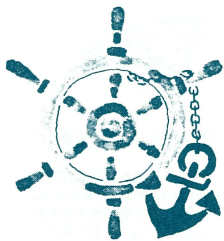
三水会の発展をめざして

企画担当理事 長谷川 一 敏

た印象に深く残った観光地・ゴルフ場・スキー場など、数え上げればきりがありません。しかし少しづつでも築き上げようではありませんか。一部では同窓生同志が情報を交換し、仕事に活用しているという事も聞かれます。そして、もつと多くの卒業生に、この様な輪を広げたいと思います。今後さらに三水会が大きく発展するには、同窓会員皆様の御助言・御協力が是非とも必要です。

最後に、私たちは同じ場で学び、同じ場で語り合ったというきずなは一生消えるものではありません。このきずなをより深め、人生のエネルギーとして、より豊かな人生にしたいだきたいと思えます。

三水会会報も第10号を迎え、水産学部同窓会に歴史としての厚みが出てまいりました。当初の目的であった同窓生全員の参加・交流、同窓生と在学生の就職問題を通じてのつながりも定着化し、充実してまいりました。同窓生の就職先を見ても、水産専門職はもとより、流通・医療・薬品・諸研究機関等、様々な分野で活躍され、水産学部の名が社会の中に益々根をおろしています。この様に社会に深く根をおろすことができ、大学の先生方の御支援、同窓生の努力によるものと思います。現代は情報社会と言われています。情報を入手する手段の一つとして三水会を通じてのルートがあります。会員には仕事・レジャー等いつでも気軽に利用できる組織に、また在学生には幅広い生の就職情報を提供できる組織にしたいと考えています。そのためには様々な情報を三水会にインプットしなければなりません。卒業生の就職の分野・特徴など、ま



水産増養殖とバイオテクノロジー

水産学部長 藤野和男

過去四分の一世紀の間に世界の増養殖漁業は、日本を始め欧米諸国等における種苗生産・飼育管理および漁場造成など関連科学技術の進歩に支えられて目覚しく発展した一方、近年になってエネルギー価格・人件費の高騰・国際競争の激化など増養殖をめぐる環境は一段と厳しさを増しつゝ、あることはご承知の通りです。

その水産増養殖の現状・問題点を世界的規模で総括・見直す為、世界海洋増養殖学会(WMS)と欧州海洋増養殖学会(EMS)共催の水産増養殖世界会議が一九八一年ベネチアで開かれ千余名が出席しました。この会議で取上げられた主要課題の概略は「水産育種八号、一九八三年」で紹介され、又その全容は近々紀要として刊行されます。その主要課題の一つとして遺伝学的課題が取上げられ、私は、組織委員会の要請に応じて「水産増養殖と資源管理における遺伝学的要因の影響について」と題して総述講演を行いました。内容は、遺伝・育種学と遺伝資源の保

全・保存の二つの問題に要約されますが、本日は、前者に関連する育種技術、特に生命工学の導入による技術開発の可能性と最近の実例二、三をご紹介します。

時間の制約の為、近年急速に進展しつゝ、ある染色体工学(染色体操作)にしばつてご紹介します。その原理ですが、図の通り減数分裂中期の状態にある成熟卵に対して、受精後間もなく、低温・高温または水圧など人為的刺激を加えて極体放出または第一卵割を阻止するなどして染色体のセット数を操作し、雌性発生二倍体・三倍体等作出しようというわけですが、一般に前者はクロニンゲンとも呼ばれ、品種・純系樹立または劣性有害遺伝子の検出の促進・後者は不妊化に伴う成長度の促進等の効果が期待されます。この図は、魚類など脊椎動物の場合ですが、アワビなど無脊椎動物では、成熟卵は第I減数分裂中期の状態にあるので、操作のチャンス・可能性は一段と多くなります(詳細は、農業と園芸六

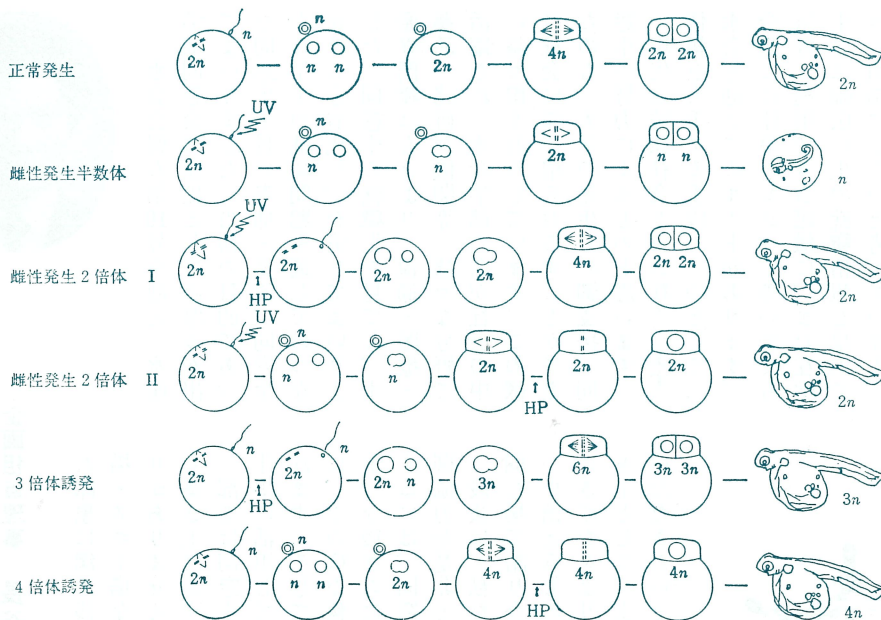


図 魚類の染色体数倍化機構の模式図

図中UVおよびHPは、それぞれ精子の紫外線、X線またはガンマ線による処理と接合子の物理または化学的刺激による処理を示す。(小野里坦博士のご好意による)。

正常発生では、 $2n$ の成熟卵は精子より雌性前核として n 個の染色体を受取る一方、1組の n 個を第2極体として放出し、もう1組の n 個を雌性前核として保持する。このような授精の結果2倍性胚発生となる。雌核半数体の発生で正常発生と異なる主な点は、放射線処理による精子の遺伝質破壊のため、成熟卵が雌性前核を受取らぬことである。しかし照射を受けた精子は遺伝質を提供することなく卵の核分裂を起させる能力がある。その結果生ずる半数性の胚は一般に異常を示し、その後限られた期間しか生存し得ない。雌核2倍性発生には2通り(IおよびIIとして示す)が可能である。第Iの場合、照射精子で授精後間もない卵(接合子)を物理または化学処理することにより第2極体放出を阻止し直ちに2倍性が回復する。第IIの場合、半数性卵の第1卵割直前に物理または化学的処理を行うと、有糸分裂が阻止されて2倍性が回復する。上述の第Iおよび第IIの場合と同様の処理を正常精子で授精後の接合子に対して行くと、それぞれ3倍体および4倍体が産生される。(FUJINO²⁾より引用)。

○巻一号、一九八五年・水産におけるバイオテクノロジーを参照下さい。この様な事例は、大西洋産カレイ、アユ、ドジョウ、北米産ホタテ貝などについて成功例が報告されています。個々の説明は紙面の都合で

細菌公害に重視

(株)日本衛管指導センター

横堀昌道

私共が勤めている会社は分析業です。分析業と言っても大気・水質・土壌などの公害の分析と違っていただければよいかと思えます。臨床検査や、工場などの製品管理分析などと違い、公害の分析は検体の個体差が大きく、蒸溜水や飲料水から下水や工場排水などとバラエティーに富んでおり検体に合わせて分析方法や手間が大きく変化してしまします。まして分析は化学変化ですから、一度手をつけると途中でやめる訳にはいきませんので、家に帰る時間もバラバラ。しかし、反応時間の合間をぬってコーヒーを飲む時間も有りますから、それほど過酷な職場ではありませんね。ただし、検体を採取し

省略しますが、最近の成果は何れも水産増養殖の生産性向上につながる可能性を持つもので、前述の様な厳しい環境への対応策の一つとして今後一段と注目を浴びることになりましょう。

ている時は一日中車で廻わっていますのでこの方が過酷かもしれません。

ここで社員の構成はと言うと、現在10名でほとんどが北里大学出身、経営者は薬学部出身ですが、私を始めとする水産学部出身者は6名と過半数を締めています。そのため海の調査などの仕事が入ると、水産学部出身者は張切なのですが、なかなか仕事が廻わってきません。

そこで、北里柴三郎先生が細菌学に従事された先生ですので、私共も細菌に対して重視したいのです。と言っても細菌学を進めるのではなく細菌公害(細菌汚染)を防ぐ事です。現在病院や、臨床検査などで使用した器材がそのまま一般のゴミに混

入し、細菌公害の危険性が高くなってきたからです。この問題は、ラボ内では細菌に従事された人々が使用した器材ですからそれほど大きな問題にはならないのですが一旦ラボから外に出ますと、細菌に対して知識の少ない人々が収集運搬を行なうため危険性が高くなるのです。

たとえば、最近非常に多く使われている使いすての注射筒やシャーレなどに、血液など細菌に汚染されたままの状態ですてられており、収集時に液を零したり手などの傷に触れたりすれば、細菌に汚染されたり感染したりする危険性が生ずるのです。がそこまで知らずに収集運搬を行なっているのです。

この様な事故やラボ内での感染の事故を防ぐためにも私共の会社では、特別な収集容器をラボ内に置いても

らってこれに汚染された器材をすてもらい私共の会社で収集し、高温高圧下で滅菌後すてると言う中間処理を行なう事になりました。

これによって使用した人が、器材をこの容器にすててもらえば、滅菌がおわるまで人の手に触れる事もなくラボ内は素よりラボから外に出ても安全に収集運搬が行なえるのです。

これからは、化学が発達するにつれ、いままでの有害金属などの公害の外、この様な細菌による公害にも重視していかなくてはならないと思います。この様にして私共の会社は北里大学での知識を生かして、毎日

江戸川区松江4-28-12
問合わせ先(株)日本衛管指導センター
〇三十七二一三二八二

第六回「三水会総会」開催される

「昭和六十年三水会定期総会」が去る五月十九日(日)、白金北里本館大会議室において開催され、次の事項について審議決定されました。

一、昭和五十九年度三水会事業報告

(1)、会報の発行

同窓生の動向、学部の実況、各種の情報等を内容とした会報を五十九年八月と六十年三月の二回発行した。

(2)、「水産学部だより」の配布

- (8) 本学水産学部の発行する「水産学部だより」を増刷し、全会員に配布した。
- (7) 卒業期別、都道府県別の本会会員名簿を全会員に配布した。
- (6) 会員の現況の把握
- (5) 会員名簿の送付とあわせて異動連絡票を送付し会員の現況を把握した。
- (4) 同期会等の助成
- (3) 同期会、クラブOB会等卒業生の集会の費用の一部を助成することを会報において広報したが、申請はなかった。
- (2) 講演会の開催
- (1) 五十九年五月に小林教授、野村教授に協力願い、学術的な発表、大学の現況等についての講演会を白金校舎にて開催した。
- (8) 親睦会の開催
- (7) 会員を対象とした親睦会を東京（白金、五日市）および名古屋にて開催した。また、水産学部学生との懇談会を東京において開催し意見交換を行った。
- (6) 学友会助成
- (5) クラブの活動費および、体育
- (4) 祭費用の一部を助成した。
- (3) 就職ガイダンスの開催
- (2) 各分野の卒業生による就職ガイダンスを水産学部生を対象に三陸校舎にて行なった。
- (1) 事務局の設置
- (10) 都内に本会事務局を設置した。
- (9) 二、五十九年度決算案の承認
- (8) 田中常任理事より五十九年度決算案について説明がなされ、佐々木監事より監査結果が報告され、承認された。
- (7) 三、六十年年度事業計画の承認
- (6) 説明の後、以下の計画について承認された。
- (5) (1)、会報の発行
- (4) 同窓生の動向、学部の現況、各種の情報等を内容とした会報を二回発行する。
- (3) (2) 「水産学部だより」の配布
- (2) 本学水産学部の発行する「水産学部だより」を増刷し、全会員に配布する。
- (1) (3) 会員名簿の配布
- (10) 本会会員名簿（職域別等索引付）を全会員に配布する。
- (9) 会員の現況の把握
- (8) 会員名簿の送付とあわせて異

昭和60年度三水会予算案

昭和59年度三水会収支決算

支 出 の 部		収 入 の 部	
科 目	予 算	科 目	予 算
1.事業費	3,800,000	1.1~7期生終身会費	200,000
(1)会報発行費	1,100,000	2.部会助成金	4,500,000
(2)水産学部だより配布費	300,000	3.預金利息	70,000
(3)会員名簿配布費	500,000	4.前年度繰越金	1,196,837
(4)会員の現況把握費	150,000		
(5)同期会等助成費	100,000		
(6)講演会費	100,000		
(7)親睦会費	1,000,000		
(8)学友会助成費	300,000		
(9)就職ガイダンス費	250,000		
2.運営費	1,550,000		
(1)印刷・通信費	200,000		
(2)会議費	200,000		
(3)総会費	200,000		
(4)事務局費	800,000		
(5)慶弔費	50,000		
(6)外渉費	100,000		
3.予備費	616,837		
合 計	5,966,837		5,966,837

支 出 の 部			収 入 の 部		
科 目	予 算	決 算	科 目	予 算	決 算
1.事業費	2,900,000	3,140,656	1.1~7期生終身会費	200,000	0
(1)会報発行費	700,000	1,052,433	2.部会助成金	4,460,000	4,460,000
(2)学部だより配布費	300,000	271,500	3.預金利息	70,000	60,695
(3)会員名簿配布費	500,000	667,761	4.前年度繰越金	827,113	827,113
(4)会員の現況把握費	150,000	47,650			
(5)同期会等助成費	100,000	0			
(6)講演会費	100,000	83,320			
(7)親睦会費	500,000	671,052			
(8)学友会助成費	300,000	210,000			
(9)就職ガイダンス費	250,000	136,940			
2.運営費	2,000,000	1,010,315			
(1)印刷・通信費	200,000	156,560			
(2)会議費	200,000	134,640			
(3)総会費	200,000	76,460			
(4)事務局費	800,000	401,195			
(5)慶弔費	50,000	30,000			
(6)外渉費	50,000	75,660			
(7)事務局設置費	500,000	135,800			
3.予備費	657,113	1,196,837			
(次期繰越金)					
合 計	5,557,113	5,347,808		5,557,113	5,347,808

動連絡票を送付し会員の現況を把握する。

(5) 同期会等の助成

同期会、クラブOB会等卒業生の集会の費用の一部を助成する。

(6) 講演会の開催

学術的な発表、大学の現況等について水産学部の方先生方に講演していただく会を白金校舎にて行なう。

(7) 親睦会の開催

会員を対象とした親睦会を東京都、千葉県および岩手県において開催する。

(8) 学友会助成

また、水産学部在学生との懇談会を開催し意見交換を行う。

(9) 就職ガイダンスの開催

各分野の卒業生による就職ガイダンスを水産学部生を対象に三陸校舎にて行なう。

三水会財産目録

一、第一勧業銀行 本店 普通預金口座

一、一六九、三三七円

口座番号 一一八二三三八

二、郵送料後納担保金 代々木郵便局

計

二七、五〇〇円
一、一九六、八三七円

(特別会計、事業積立金)

第一勧業銀行 本店 定期預金

一、〇〇〇、〇〇〇円

預金番号 〇〇六六三三三三・一〇一

四、六十年度予算案の承認

六十年度予算案について説明の後、別表の通り承認された。

閉会後、引き続き同大会議室において、「先生を囲む会」を開催いたしました。今回は藤野学部長より「水産増養殖とバイオテクノロジー」と題し、遺伝子操作、細胞融合、発生工学等、最新の生物技術、水産における応用について講演いただき、水産界のたえざる進歩に思いを新たにいたしました。このあと同会館食堂において懇親会が開かれ、盛況でした。

「漁船海難遺児」に理解と協力を

三水会会長 長屋 信博

「漁船海難遺児」という言葉を皆さんはご存じでしょうか。

海難事故や操業中の労働災害等で、毎年五〇〇人もの多くの漁業者が死亡、行方不明となっています。

漁業界としても、業界をあげて事故の撲滅にとりくんでいます。昨

年の暮から今年にかけて、皆さんも新聞、ニュース等でご存じのとおり

二十名の死者、行方不明を出した「五十二惣宝丸」、奇跡的に三名が生還したものの十三名の死者、行方不明を出した「日東丸」等、事故は依然として多発しており、自然を相手とした漁業における事故防止のむずかしさを物語っています。

一家の大黒柱を失った家庭の暮しの厳しさは、私も仕事の関係上、時々話をうかがいますが、言葉では言い表わせないものがあります。

特に、一人で家を支えながら、育ち盛りの子供達を養育していくことで、身も心も磨り減らしている母親の姿には、ひたすら頭が下がる思いがします。そして、父親のいない淋

しさを、悲しさを乗り越え、母親や祖父母を助け、懸命に生きている小さい子供たちの健気な心情には胸を熱くするものがあります。

このような、漁船の海難事故等で親を亡くし、遺された子供達に経済的、精神的な励ましを送るために、

「漁船海難遺児育英会」が十五年前に設立され、漁業関係者、一般の方々等から寄せられた募金、寄付等により造成された基金により、遺された子供達に学資の給与、奨学金の貸与等が行われています。

現在、幼児から高校生まで、約一、八〇〇名の子供達が奨学生として採用されています。

教育費をはじめとする諸物価の値上りから、遺児家庭の生活は厳しさを増しており、漁船海難遺児育英会では、給与、貸与額の増額を行うべく新たな募金運動を行っています。

交通遺児と異なり、なかなか一般の方々への理解を得にくい漁船海難遺児ですが、水産を学び、三陸の地で漁村の生活を経験した私達です。是

非、漁船海難遺児にご理解をいただき、暖かい励ましの手をさしのべていただきますようお願いいたします。

本会としても、去る五月開催した総会において、特別の決議を行い、十万円を育英会に寄付いたしましたことをご報告いたします。

終わりに、育英会が十五周年記念事業として行った作文募集により、遺児達から寄せられた作文が文集として刊行されましたので、そのなかから一編を紹介させていただきます。

なお、募金、文集についてのお問い合わせは左記にお願いいたします。

(募金)

・漁船海難遺児育英会

〒二三 東京都千代田区内神田

二―二―一 鎌倉橋ビル

TEL〇三―二五六一一九八一

(三水会事務局にお問い合せいただいても結構です。)

(文集)

・海文堂出版

〒二三 東京都文京区水道橋

二―五―四

TEL〇三―八一五―三二九一

(直接申込の場合は、書籍代一、〇〇〇円に送料二五〇円を添えて下さい。)

僕と父

熊本県立天草西高校三年

小林義人

僕の父は、底引漁船の乗組員でした。その父は、昭和五十五年十二月十六日、海の荒れた寒い日、漁に行く途中遭難し二度と帰らぬ人となっていました。この時、僕は中学校一年生で、弟は小学校一年生、身体障害の妹がいました。

あの日の事は忘れもしません。母は父が亡くなる前日、祖母が入院していたため看病に行っていて家にはいませんでした。僕は、夜中の二時頃、父から起こされましたが、まだ眠かったので起きもせず布団に入っただけで父を送り出しました。父はいつもの様に、「行ってくる」と言ってお金を取った。それが父と僕の最後の会話だったのです。まさかこれが別れになるとは思いもせず、何も考えずまた寝てしまいました。

朝、いつもの様に僕と弟は、学校に行きました。ふだんと違い、町中がなんとなく騒がしい様に思いましたが、僕らは気にも止めず学校へ急ぎました。

ところが学校に着くなり、先生から、明け方、父が海で行方不明にな

っているという事を聞かされたのです。泣きたい気持ちをごらね急いで家に帰ったものの、何をどうしたらいいかわかりません。そのうち近所の人達も集まって来て、大変な騒ぎとなりました。昼近くになって、知らせを聞いた母も驚いて帰って来ました。母は家に帰るなり、全身の力が抜け、ぼうっとなっていました。父は、結局行方不明のまま僕達の所には帰って来ませんでした。けれども、僕は、どうしても父の死を認める事が出来ませんでした。弟も父の死に対して、まだ、何が何だかわからない様子でした。人は生まれ、いつかは死ぬと分かっていますが、父の場合、何だかあまりにもあつけない、人の命とはこんなものなのかとつくづく思い知らされました。

その父が亡くなって、早いもので、もう五年になろうとしています。優しく、笑顔の絶えなかった父は、今でも僕達家族の心の中で生き続けています。働き者で、とても忙しい毎日を送っていました。朝は早くから、まだ誰も眠っている時刻に出かけ、

夜も遅くまで働いていました。父は、たまの休みの時でも、じっとしているのが嫌いで、何かと探し出しては一人でこつこつとやっていました。そんな忙しい父でしたが、時には、キャッチボールをしたり、釣りをしたりいろいろな事を教えてくれたものでした。

今、こうしていろいろ考えてみると、ついこの前のことの様に思い出されます。しかし、そんな父に、僕はいつもさからってばかりで、本当に申しわけなくたまりません。

でも、今、こうして僕達が不自由なく生活出来るのも、周りの人達から少しずつ助けてもらっているからだと思っています。特に母の実家が近くだから、いろいろ助かっていると感謝しています。

僕も父が亡くなって以来、少しでも母の役に立ちたいと、手伝いをしたり、アルバイトなどして頑張っています。

父が行方不明になったと聞いたあの日、母の打撃は大変なものでした。その時、僕は、月並みな表現ながら、「ああ、僕がしっかりしなければ」と切実に思ったのです。

来年はいよいよ卒業です。自分の将来はどうあるべきか悩んでいます。

少しでも早く一人前になり、母を安心させてやらなければいけない。やはり、地元に残り母の近くで働くのが一番良いとは思っているのです……。

とにかく母や弟、体の弱い妹の事

を考えて、父の分まで僕がしっかりと、一生懸命に頑張りたいと思います。

最後に、漁業で働いている皆さんに、事故に気を付け健康で頑張ってください。よろしくお願いします。

簀立（すだて）漁に参加して

大野 良 樹（増殖一期）

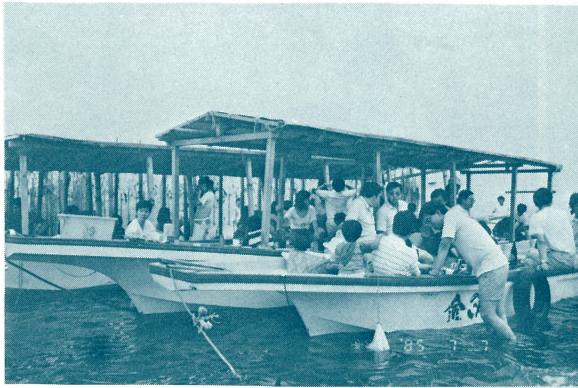
7月7日、三水区関東地方懇親会の簀立漁が千葉県木更津市の金田海岸において行なわれた。簀立漁とは遠浅の海岸の沖合1kmほどのところに、長さ百mほどの金網の柵を立て、柵の一端を渦巻状に立てておくと、柵に沿って泳いできた魚は渦巻状の柵に誘い込まれ出られなくなる。潮が引き水位が低くなったところで、魚をタモですくい取るといふ漁法である。木更津ではもっぱら観光用に行なわれているようである。

茨城県在住の私と家内は、朝早く車で出発した。集合場所の簀立網元「おおがや」に着いたのは午前10時頃であったが、すでに数組の卒業生が来ていた。久しぶりに会ったF君の子育て談を笑いながら聞いている



うちに、続々と卒業生の車が集まって来る。新婚ホヤホヤのN君や三世大家族の大集団、独身貴族などにぎやかなことこのうえない。すでにビールで乾杯しているグループもある。木更津駅に集合した連中も合流し、いよいよ出港である。簀立の漁場までは屋形船で行き、潮が引くまで船の上で待つのである。初めて海で船に乗る子供たちは大喜びである。天気は快晴とはいかぬが、潮風が心地よい。潮が引くまでの間に、ビールのピッチがかなりあがる。

一時間ほど待つと潮はひざ位まで引き、船は砂浜に着底した。いよいよ柵の中へ入る。皆、手に手にタモを持って、せまい入口から身をかがめて入り込む。目をこらして見るとかなり大きな魚が泳いでいる。私も追いかけて見るが仲々つかまらない。つかまるのはウマヅラハギばかりである。しかしそこは水産魂、前後左右からの連係プレーで大きなスズキをつかまえた。もっぱら貝ひろいに熱中するグループもあり、アサリやハマグリなど袋に一杯取っている。



体育祭報告

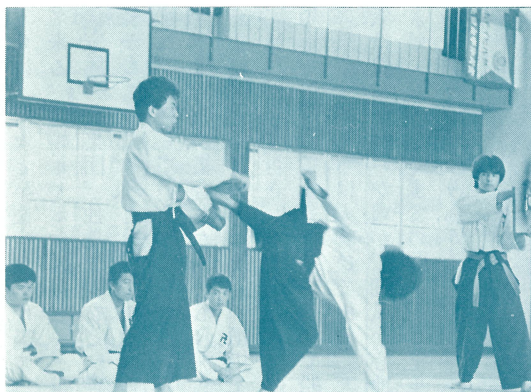
体育祭実行委員長

一時間ほど魚取りに熱中し、タイ、スズキ、カレイ、タチウオ、アジなど大きなバケツに2杯ほども取れた。この魚や貝、海藻を漁師さんがその場で料理してくれる。天ぷら、あらい、煮漁、塩焼、酢のものなど食べきれないほどだ。潮風にふかれながら活きの良い魚を喰いビールを飲

み、旧友と語り合う。こんな楽しみはそう無いのではないか。たっぷり飲み喰いするうち、潮が満ちてきて、船はまたゆるやかな波のリズムに乗りだした。そろそろ帰港する時間になり、大満足の我々を乗せ、船は波をけたてて港へ向かった。

五月二十五、二十六日の両日、あいにくの天候にもかかわらず、第十二回北里大学水産学部体育祭が催されました。第一日目の恒例の駅伝は、一晩がかりの準備にもかかわらず、春の嵐のために中止となり、二日目にはばされました。そのためにバレーボールがおこなわれ、ひきつづき空手道同好会、射道部、少林寺拳法部による演武があり、夕方、軽音楽部による演奏がおこなわれました。二日目は、さいわいよく晴れて、太田先生によるスタートで各団体二十九組が坂道、悪路、カーブ、などの多い二十五キロで健脚をきそいました。部旗をかかげて走るクラブや

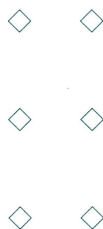
潜水機材を身につけて走る潜水部のようなPRチームも参加しそれぞれの趣向で駅伝を盛り上げてくれました。結果は、一位が陸上競技同好会で二位がサッカー愛好会、三位は潜水部でした。このあと、ドッチボールがおこなわれ、黄昏せまる体育館に歓喜の声がこだましました。午後七時に太田先生による閉会の挨拶をいただき無事、終了しました。最後に体育祭の運営にあたって協力して下さった。体育会本部、文化会、執行委員会、級友会の皆さんに実行委員会一同、心から御礼を申し上げます。





三陸校舎にて就職ガイダンス

6月10日、今年も三陸校舎にて、三水会による就職ガイダンスが行なわれました。三水会からは田村治副会長、沼田隆善氏(A2)、高島博志氏(F4)、中村栄氏(A9)、三水会事務局員河野泰子さんが出席しました。特に高島氏は日本リクルートセンターに在職されており、就



在学生との懇談会開催される

8月18日、白金本館会議室に於いて、水産学部学友会委員と、三水会理事との懇談会が行なわれました。学友会からは大川君(執行委員会財務担当)、浦井君(文化会委員長)平本君(体育会委員長)、渡辺君(漁火祭実行委員長)が、三水会からは長屋会長、長谷川常任理事、横堀常任理事、大野常任理事が出席しました。懇談会では文化会、体育会の活動状況、執行委員会の運営状況などについて学友会より説明があり、三水会側からは学友会助成金、漁火祭における本部同窓会主催による講演会などについて説明がありました。



同窓会保養施設の利用について

北里大学同窓会では別紙（保養施設一覧）の様な施設の利用権を持っています。これらの施設は北里大学同窓会員であれば、**抽選のうえ**に利用することができます。非常に低額（一名・一千円～二千円・食事別）にて宿泊でき、付帯設備も色々あります。（食事については、自炊のみの施設もありますので、一覧表にて確認して下さい。）

利用に際しては、まず北里大学同窓会（三水会ではありません）に葉書で応募しなければなりません。詳しくは別紙の利用方法の項をお読み下さい。また、北里大学同窓会報No. 19（昭和60年8月20日発行）にも詳しい利用方法が掲載されておりますので、合わせてお読み下さい。利用期間と応募の〆切日は以下のとおりです。

＜利用期間と〆切日＞

利 用 期 間	申 込 み 〆 切 日
12期(12・24～S60・1・6)	S. 60・11・1
13期(1・7～3・31)	S. 60・11・20
14期(4・1～7・10)	S. 61・2・1

